

117 飛騨牛、マンモス復活プロジェクト（地歴公民）

(1) 研究の概要

平成20年度地歴・公民科SSH講座の名称で1・2年生希望者対象に岐阜県畜産研究所の見学会を実施した。研究開発アドバイザー大谷先生の講演・施設の見学もお願いした。

(2) 研究開発の経緯

前任校で平成13年尾張地区地歴・公民科教育研究会の委員長を担当した際、全体会巡検の巡検地のひとつとしてお願いしたのが岐阜県畜産研究所である。

当時わが国では、BSE問題が食の安全を脅かしていた。このBSE問題をメインに講演会を開催した。その時の縁で、高校生対象に講演と施設見学を計画し地歴・公民科のSSH講座とした。

(3) 仮説（ねらい、目標）

講演テーマ「飛騨牛をめぐる先端科学技術」

サブテーマ ア、飛騨牛 日本一への挑戦：ブランドの確立と安全・安心
イ、先端技術の応用：クローン・DNA解析・ICタグ
ウ、新たな未来への取組：マンモス再生と地球温暖化



施設見学 肉質日本一の種雄牛「白清85の3」の見学

講演と見学をつうじて、日本の先端科学技術の研究の現場の息吹きを本校生徒に感じさせ、進路選択の一助としたい。

(4) 研究の方法および内容

ア 対象生徒 1・2年生の希望者 25名
イ 実施日程 平成20年8月5日（火）に実施
ウ 実施場所 岐阜県畜産研究所（岐阜県高山市清見町牧ヶ洞 4393-1）
エ 実施内容

(ア) 岐阜県畜産研究所 研究開発アドバイザー 大谷 健 先生の講演

(イ) 岐阜県畜産研究所の構内見学

(5) 検証（成果と反省）

ア 事後のアンケートの結果	回答	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
(ア) 日時・日程について						
	16%	36%	32%	8%	8%	
(イ) 場所について						
	36%	44%	20%			
(ウ) 講演のテーマについて						

	32%	44%	12%	12%
(I) 講演の内容について				
	32%	24%	36%	8%
(オ) 構内の見学について				
	32%	28%	32%	8%
(カ) 全体についての感想				
	16%	60%	20%	8%

イ 生徒の感想から

- ・時々わからない部分もあったので、事前授業もある程度行ったほうが良い。DNAを解析する機械など初めて見るものが多く楽しかった。用語しか知らなかったバイオテクノロジーについて少しでも理解できて良かった。これからもこのような活動を続けてほしい。
- ・遺伝子系の話は理系的要素の強い話であった。社会科主催の講座にしては内容が以外だ。しかし話はおもしろかった。
- ・DNA 測定器が見られてよかった。思ったより小さかった。牛の飼育状況を生で見、しっかり管理していることが理解できた。普通に生活していて DNA の研究の様子を見ることは絶対ないので貴重な経験でした。
- ・自分の食べているものに、たくさんの人の手が加えられていることに驚いた。牛の生態を専門家に聞けたし、いつも見えないところも見られて良かった。

ウ 今後の実施に向けて

(ア) 日時・日程について

夏休み中、本校では補習・部活動・合宿・学校祭準備等多様な活動が行なわれている。その中で講演相手の事業体が休業でない日時となると、訪問日の設定の自由度が狭くなる。まして普段の土曜日でも設定不可である。夏休み中の日時の設定は大変だった。

(イ) 場所について

往復3時間のバス移動は大変だった。しかし先端科学技術の現場見学という目標は達成できたと思う。2009年1月初旬死後13年間凍結されていた飛騨牛の元祖といわれる「安福号」の細胞から加-牛を作ることに岐阜県畜産研究所と近畿大の研究チームが成功した。この快挙に讃辞を送りたい。



大谷先生と参加者記念写真

(ウ)・(I) 講演のテーマ・内容について

1年生の生徒については理解しづらい部分があったが、講演者大谷先生の懇切丁寧な説明をいただき講演者の主張をおおむね理解できたと思う。生徒は科学に携わる生き方のおもしろさを体験できた。

(オ) 構内の見学について

普段個人では見学できない場所に行けるのがSSH講座の醍醐味・おもしろさです。「安福号」の血を引く「白清号」の体躯はりっぱでした。

(カ) 全体として

多数の生徒の講座への参加とその講座参加への動機付けを次年度はもう少し強く指導して行きたい。引率教員も学ぶべきことがたくさんあった。